

# アクティブ・ラーニング型授業のモデル化と授業設計支援ツールの開発

角間栄作（富山大学）・成瀬喜則（富山大学）・黒田 卓（富山大学）

概要：アクティブ・ラーニング型の授業で行われる学習形態や学習活動などをモデル化し、そのモデルを活用して授業者の授業設計を支援することは必要である。本論文では、若手教員やこれからアクティブ・ラーニング型の授業に取り組もうとする教員を支援し、生徒の主体的で対話的な深い学びの実現につなげるために、授業設計支援のためのツールを開発したので報告する。

キーワード：アクティブ・ラーニング，授業設計，授業スキル，インストラクショナルデザイン

## 1 はじめに

中央教育審議会（2016）で次期学習指導要領の改善の方向性が示され、主体的・対話的で深い学びの実現（アクティブ・ラーニング（以下 AL）の視点）が示された。AL は、子供たちに新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むための有効な手立てである。学校現場は、AL を取り入れた授業（以下 AL 型授業）で主体的・対話的で深い学びが実現するように、日々の授業を改善していくための視点を共有し、授業改善に向けた取組を活性化していくことが求められている。

学校現場では、盛んに AL 型授業についての研究や実践が取り込まれ始めており、AL 型授業の優れた実践もさまざまところで数多く紹介されるようになってきた。しかし、日々の授業のレベルでは AL 型授業が広く定着しているとは言えない。その原因の一つとして、AL 型授業に対する理解が広く浸透していないことが考えられる。AL 型の授業の学習形態や学習活動、主体的な学びにつなげる手立てなどをわかりやすく示していく工夫が必要である。

そこで、本研究では若手教師やこれから AL を始めようとする教師を対象にして、教育理論や教育実践の中から AL 型授業で行われる学習形態や学習活動を抽出してモデル化し、それを活用することで授業づくりを支援する AL 型授業

設計支援ツールを開発した。

## 2 研究の方法

教師の授業設計をするために、AL 型の学習活動にはどのようなものがあるのか、学習活動をどのように組み立てることで学びが深まるのかということについて、教育理論や優れた教育実践から得られた知見をまとめ、授業づくりを支援するしくみづくりをめざした。具体的には、以下の2点に取り組み、AL 型授業の設計支援をする手立てとした。

- (1) AL 型授業を実現させる学習活動のモデル化
- (2) 表計算ソフトを用いた授業設計のための支援ツールの開発

## 3 研究内容

- (1) AL 型授業を実現させる学習活動のモデル化  
AL 型授業の実践や AL に関する文献、田中博之(2016)から、AL 型授業で行われている学習活動を抽出し、それらを学習展開や学びの種類などによって体系的に分類し、それぞれの学習活動が授業のどの場面に有効なのかを示すモデルを作成した。

稲垣・鈴木（2011）は、ガニエが示した9 教 授 事 象 を 授 業 の フェーズの中で位置づけている。これをもとに、授業の各フェーズで導きたい生徒の学びの状態を表1のようにまとめた。学びの状態で学習活動を構成することで生徒の主体的な学びを実現させる手立てとした。

フェーズ	生徒の学びの状態
導入	1 本時の課題に興味を持っている
	2 学習目標が理解できている
	3 本時のテーマと、前時の学習内容とを関連づけられている
展開	4 課題を理解している
	5 課題解決のための視点や考え方を 持っている
	6 課題に対する自分の考えを持って いる
	7 相手の考えを取り入れる
まとめ	8 学んだ成果を確認する
	9 本時で学んだことを整理する

表1 生徒の学びの状態

授業展開の設定				
番号	項目	学習展開		時間(分)
		展開	学習形態	
100	導入	前時の確認		2
210	展開	学習課題の提示		5
220	展開	課題解決への視点・見通し		3
300	展開	個人の考察		5
410	展開	考えて発表し合う	対話型学習	5
430	展開	比較・検討整理・判断で考えをまとめる	対話型学習	10
510	展開	全体への発表	対話型学習	8
520	展開	全体での検証・考察		5
600	まとめ	個人の考察		5
700	まとめ	次時の確認		2
合計時間				50

図1 授業展開の設定シート

(2) 表計算ソフトを用いた支援ツールの開発

今回開発する支援ツールは表計算ソフトで作成する。まず、図1のシートで授業の全体的な構成を考える。授業スタイルは基本形を定め、そのスタイルに合わせて授業を組み立てていく。

各学習活動の具体的な内容は、図2のシートで作成する。表計算ソフトのシートへ「学習課題」「学習の成果」「対話型学習の型式」などを選択または入力することで、学習活動モデルから該当する学習活動が選ばれ、シート上に表示される。そのモデルを参考にしながら所定の欄に具体的な学習活動や指導の留意点などを入力していく。

4 今後の課題

授業実践の経験が豊富なベテラン教師に意見をもらい、若手教師に実際に活用してもらおうこと

で、このツールの有効性を評価したい。その評価から得られた事柄をフィードバックすることで、活用しやすい授業設計支援ツールに改善していきたい。

5 参考文献

中央教育審議会(2016)次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi)

/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm

田中博之(2016)アクティブ・ラーニング実践の手引き, 教育開発研究所: 66-69

稲垣忠, 鈴木克明(2011)教師のためのインストラクショナルデザイン授業設計マニュアル, 北大路書房: 68-72

学習活動設計シート①					
番号	学習展開			時間(分)	
100	導入	前時の確認		2	
教 科	社会				
学 年	2				
学 習 単 元	中部地方の産業				
学 習 課 題	交通網の発達には地域にどのような影響を与えるか				
学習者への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題(内容)に興味を持つ。</li> <li>○本時のテーマと、前時の学習内容とを関連づけられる。</li> <li>○学習課題が理解できている。</li> <li>○課題解決のため視点や考え方を持つことができる。</li> </ul>				
学習活動	主体的な活動 ・前時の学習内容を発表する ・前時の学習内容をプリントへ記入する	対話的活動 ・前時の学習内容を周囲の生徒と話し合う	深い学びを促す活動		
順番	学習者への働きかけによる学びの構成	学習活動	具体的なねらい	指導の留意点	
1	○本時の学習課題に興味を持つ	○交通網に関する動画資料を視聴する。	○動画資料をみせることで、生徒の注意を引き付ける。	○動画資料をみる際の視点を伝えることで、発問を工夫する。	○動画資料に出てくる人の発言に注目してみてほしい。
2	○交通網の発達について理解する	○交通網の発達による効果を考える。	○飛行機、列車、高速鉄道など、以前よりどのように変わったかを確認する。	○生徒に発問して出てきた事柄を全体で共通理解させる。	○それぞれの交通手段の特徴は何でしょうか？

図2 授業作成シート